

第1回 新潟駅・万代地区周辺まちづくり協議会 議事録

開催日時	令和元年7月22日(月) 13時～15時
開催場所	白山会館 2階 大平明浄の間
出席者	<p>【委員】 出席 25名 藤澤 成委員、阿部 正喜委員、山崎 和美委員、中村 美香委員、木山 光委員、山田 周委員、岩村 忠委員、宮川 善徳委員、高井 俊幸委員、鶴間 尚委員、和田 徹委員、三本 和彦委員、佐藤 研一氏(田中 正克委員代理)、松平 信治氏(北出 一雅委員代理)、田中 創委員、大坂 剛委員、佐野 哲郎委員、塚本 雅人委員、古川 尚史委員、新階 寛恭委員、加藤 雅之委員、上村 洋氏(関川 丈彦委員代理)、長井 亮一委員、渡辺 東一委員、柳田 芳広委員、 (欠席：肥田野 正明委員、田中 昌直委員)</p> <p>【事務局】 新潟市 都市政策部 都市計画課</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 出席者名簿 ・ 座席表 ・ 新潟駅・万代地区周辺まちづくり協議会規約(案) ・ 「新潟都市のデザイン」リーフレット ・ 資料1-1～資料3-7 ・ 参考資料
内容	
	<p>1. 開会あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新潟市技監 新階委員から開会の挨拶 <p>2. 趣旨説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局から本協議会の趣旨について、資料1-1～1-3、資料2により説明 <p>3. 自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席委員の自己紹介 <p>4. 議題</p> <p>(1) 新潟市・万代地区周辺におけるまちづくりの動向について</p> <p>①-1 新潟駅周辺整備事業等の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新潟駅周辺整備事務所から資料3-1により説明 <p>①-2 新潟駅交通結節機能強化検討委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新潟駅周辺整備事務所から資料3-2により説明 <p>①-3 都心軸における道路空間の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局(都市計画課)から説明 <p style="padding-left: 40px;">本市の都心部においては、人を中心としたまちづくりとして、まちなかで人々が集い、憩い、多様な活動が繰り広げられ、交流・出会いが生まれるような場づくり</p>

中村委員	<p>として都市空間をバージョンアップしながら、都心の道路空間や公園など公共空間を利活用する取り組みを進めていく必要があると考えている。このような取り組みは、ニューヨークをはじめとした世界の多くの都市で進められており、国土交通省では「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成による“ウォーカブルなまちづくり”を目指し、国内外の先進事例など情報共有や、政策づくりに向けた国と地方のプラットフォームづくりとして、「ウォーカブル推進都市」の取り組みを推進されている。</p> <p>本市の新潟駅・万代地区においては、新潟駅周辺整備事業による新しい万代広場の供用を2023年目標としていることや、万代シティのリニューアルが進むなか、都心軸や副軸においても、多様なアクティビティが生まれる公的空間の創出に向けて取り組む必要がある。そこで、そのリーディングプロジェクトとして、新潟駅と万代をつなぐ弁天ルートのなかで、人々が集い、憩い、多様な活動が繰り広げられ、交流が生まれるような場づくりに向け、道路空間の再配分による歩行者空間の創出も視野に入れ、具体的な取り組みを進めていきたいと考えている。</p> <p>今後、まちのプレイヤーとなる地元の関係者の皆さんと一緒に勉強しながら、どのような使い方をしたいのか、そのためにどのような機能を備えた都市空間が必要かなど、アイデア出しをするとともに、社会実験の実施や、それによって人の流れがどう変わるかなど、やれることから試行的に実施してみることを想定して、取り組みを進めていく。</p> <p>「ウォーカブル推進都市」について、北陸地方整備局より説明をお願いする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中氏(佐藤委員代理)から説明 <p>国土交通省では、7月12日に記者発表を実施した。居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりに取り組みませんかということで、国内外の先進事例の情報共有を行い、国と地方とのプラットフォームに参加して、ウォーカブルなまちづくりを推進する「ウォーカブル推進都市」の募集を始めている。これは随時募集を受け付けているが、8月2日を目途に一度とりまとめを行う予定である。全国的な取り組みの事例と、これからの取り組みを集めていく。発信の仕方等については、まだ決まっていないが、今後そのような動きがある。</p> <p><委員からの質疑応答></p> <p>居心地よく歩きたくなる街について、ぜひ進めていただきたい。まちと人をつなぐ装置をたくさん置けることがウォーカブルの街だと思うので、とても期待している。ぜひ、市民の想いを汲み取りながら進めていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ② 万代島地区のまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・港湾空港課から資料3-3により説明 <p><質疑応答></p> <p>質疑なし</p>
------	---

③-1 新潟駅周辺のまちづくり

・まちづくり推進課から説明

新潟駅の連続立体交差事業の第一期供用開始や関連する街路の整備も進んでおり、周辺のまちなみに変化が現れてきている。陸の玄関口の変化が新たな投資の機運ともなり、駅周辺では建物の更新を目的とした勉強会が開催され、市も参加している。市では、地域のまちづくりを支援することを目的に、アドバイザーを派遣する助成制度があり、各地区の勉強会にご活用いただいている。北陸新幹線の整備効果もひと段落し、本市のオフィス床の需要は高まっていると聞いている。連続立体交差事業などの大規模公共投資が、民間の期待値を高め、まちづくりの機運に繋がっているものと実感している。引き続き、市として地域のまちづくり活動に支援していきたいと考えている。

③-2 万代地区周辺のまちづくり

・高井委員から説明

新潟交通によって進めているリニューアル事業で、まちは45年間を迎えた。耐震リニューアル工事をするにあたり、まちのリニューアルにも取り掛かりたいと計画を進めている。昨年、レインボータワーを解体し、今年4月からバスセンタービルの耐震工事にとりかかっている。パークのリニューアルを含み、約2年半でリニューアルを終えたいと思っている。コンセプトとしては、「明るく快適で開放的な空間の創出と人々が集い“時感”を楽しむ万代シティ」を掲げている。新潟のまちは、郊外型のところと分散しているため、万代シティにおけるお客の滞留時間が減ってきている。来街するお客さんの意見によると、まだ不足している点があるので、それを踏まえながらリニューアルを行いたいと思う。その際には、コンセプトにあるように、いつでも、だれでも、だれとでも楽しい時間を過ごしてもらいたい。万代シティに来てもらえれば、楽しさを感じられるという街を目指したいと考えている。市民だけではなく、県内外、日本国外の方が、新潟を感じてもらえるまちの一助になればと思う。

歩道の拡幅や建物だけではない他のところで、ご参集のみなさまからのご協力をいただきたい。弁天ルートについても直進性の確保ということで、協議会から生まれてくることもあると思う。

・まちづくり推進課から説明

万代地区では、新潟交通さんが万代シティのリニューアルを進めておられ、新潟三越閉店後は、市内はもとより県内唯一の百貨店を有する地区となる。そのような中、国土交通省新潟総合庁舎跡地に注目が集まっている。都心の貴重な遊休地であることから、所有者である財務省からも、本市のまちづくりに重要な場所という共通の認識を持っていただき、ご配慮いただいている。

一方、本市の財政状況が厳しいなか、本市としての関わりも含め、方向性の確定にはまだ時間が必要な状況。財務省には、大変ご迷惑をおかけしている状況だが、新潟三越閉店後の人の流れも見ながら、まちづくりに資する活用ができるよう関係者と検討を進めたいと考えている。

	<p><質疑応答> 質疑なし</p> <p>④ 景観形成に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり推進課から説明 <p>本地区周辺の景観形成については、本市の都市デザインの推進に沿った景観の誘導となるよう検討を進めたい。本市の景観条例では、特別区域を除く市全域を一般区域とし基準を定め、その特別区域として信濃川本線大橋下流沿岸や旧斎藤家別邸周辺など、景観特性や景観資源を守るべき地域に対して網をかけ、一般区域よりも厳しい規制を敷いている。</p> <p>都心軸や副軸の景観に対しても、都市機能の集積や建物更新の機会をできるだけ逃さないよう誘導し、良好な景観形成となるよう取り組みを進めたい。</p> <p>今後、地区の団体、地権者や事業者などの関係者の皆様から、景観に関する規制・誘導の必要性について一定のご理解をいただいたうえで、ご意見をお聞きしながら、すぐに条例による特別区域とするようなことではなく、まずは、景観ガイドラインの検討に取り組み、緩やかな指導・コントロールから進めていきたい。</p>
阿部委員	<p><質疑応答></p> <p>新潟駅の拠点性の検討について、来街者にとって新潟駅がファーストコンタクトの場所になるため、駅の整備については景観を意識して進めていただきたいという要望を、今年の4月26日付けで新潟商工会議所まちづくり委員会から新潟市長へ提出した。歩くことについては、乳母車を押して歩く人や高齢者の方の障害にならないようなユニバーサルデザインを考えていただきたいということも提言しているので、当協議会でも、景観と歩きやすさや安全安心を合わせて検討していただきたい。</p> <p>⑤-1 ミズベリングの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり推進課から資料3-5により説明 <p>⑤-2 観光関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市 観光・国際交流部 関川氏（上村委員代理）から資料3-6、3-7、観光循環バスリーフレットにより説明
佐野委員	<p><質疑応答></p> <p>新潟市の政策の中で、問題となっている点を提案していただいて議論したい。私たちが意見を述べたとしても、新潟市の課題と噛み合っていないと協議会でやっている意味がないので、課題を出していただき、一緒に考えたい。</p>
木山委員	<p>⑥ その他</p> <p>キーワードのなかで、「ウォーカブル推進都市」が興味深い。普段生活している中で、歩くという視点が、新潟市の都心においてはまだ欠けているような気がする。</p> <p>推進都市というものは、国の認定や満たさなければいけない基準などはあるのか。そのような都市空間を目指して、「ウォーカブル」に関連した「アイレベル」、「ダイバ</p>

<p>田中氏 (佐藤委員代理)</p>	<p>ーシティ」、「オープン」のキーワードを利用した事業を行った場合、補助金などが出たりするようなものがあれば教えていただきたい。</p> <p>認定の基準や発信のし方、助成等は、現時点で決まっていない。賛同される公共団体について、現在取り組んでいるものや、今度取り組んでいくものを共有する場。</p>
<p>木山委員</p>	<p>もし、国交省で政策的に進めていく場合、都心軸のデザインにこのようなキーワードを反映させて、歩きやすい空間をつくるということをエリアのコンセプトにすることで、わかりやすくなると思う。ひとつの方向性で、このような空間をつくりましようという謳い文句としては、よいキーワードだと思う。</p> <p>また、万代島は、都心軸から少し離れて人があまり住んでいないエリアでもあるので、大胆に観光客を呼び込めるような展開を行ってもらえるとよい。今回の開港 150 周年で、新潟市が港のまちづくりに対して変わったと思える部分があり見られなかったもので、都心軸の中で、港町の景観も含めて大胆に打ち出してもらえるとよいと思う。</p>
<p>新階委員</p>	<p>都市デザインの中で、歩けるような空間にしていくことは、とても大事な視点である。歩ける空間にするために、どのようにしたらいいのかということ、この協議会で引き続き議論できたらと思う。</p>
<p>鶴間委員</p>	<p>弊社は、弁天地区や万代島との接点にあり、古町とのつながりもある。駅前と万代だけではなくて、全体の中でどのように位置付けるかが重要だと思う。そのようなことを情報交換など、連携を取りながら積極的に発信していただけるとよい。</p>
<p>新階委員</p>	<p>歩行者動線上の万代島と駅周辺と古町は、節目のところに位置しており、重要な場所なので議論していきたい。</p>
	<p>(2) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局（都市計画課）から参考資料について説明 <p>こちらは、あくまでとりまとめのイメージとなっているが、いただいたご意見等について、次回以降で、このような形でとりまとめていったらどうかと考えている。具体的には、まず新潟駅・万代地区周辺の現状と課題を踏まえ、都市デザインの具現化による計画目標を定め、それに向けた政策的な視点を整理したうえで、具体的な取り組みをそれぞれの視点でとりまとめていければと思う。次回、本日いただいた意見を踏まえ、まずはたたき台をお示しできればと考えている。今後の取りまとめ方について、ご意見をいただければと思う。</p>

佐野委員	<p><質疑応答></p> <p>都市デザインの具現化に向けたアウトプットイメージについて、当該地区の課題で書かれていることは現状だと思う。その整理を行うと本当の課題が出る。目標に対して足りないこと、足すべきことが課題になる。そこから取り組みのイメージもできると思うので、そこの整理をした上で議論できるとわかりやすくなる。</p>
新階委員	<p>次回に向けて、課題が何であるのかをもう少し掘り下げて議論できるようにできたらよいと思う。</p>
和田委員	<p>バスは新潟駅からの二次交通として考えたときに、新潟駅の南口と万代口にバス乗り場が分散しているので、まとめたらよいという意見が委員会から出ている。その場所については、南口をイメージされていると思う。しかし、本日の資料では、新潟市の玄関口が万代側になっており、観光客の方は玄関口ではない場所から迎え入れるイメージなのか。新潟駅の万代口に広い公園が整備されるので、その一角にバスやタクシーの乗り場をつくったらどうかと思う。</p>
新階委員	<p>新潟市の玄関口は万代側になる。一方で、つくれる場所や動線、効率性などを考慮しなければならないことがあるので、南口のみを集約することは簡単には決められない。これから、どのようにしたらよいという声を聞きながら取り組みたい。この協議会でいろいろな意見を聞き、その意見を委員会に届けるという連携をしていきたい。</p>
藤澤委員	<p>先日、同友会ではシアトルに視察に行った。シアトルでは人口も72～73万人で年々増え、ロケーションも新潟に似ている。まちがきれいで、全米では住みたい都市第1位になっている。新潟市もストーリー性や総合的なデザインを考えていけば、近づけるのではないかと思うので、次回以降は、具体的な細かい分野にわけて議論できればと思う。</p>
新階委員	<p>徐々に分野別についても、順番に議論させていただければよいと思う。</p>
岩村委員	<p>今後のミズベリングがどのような構想になっているのかお聞きしたい。例えば、新潟市がウォーターフロントを利用して、「横浜みなとみらい21」のように、魅力ある場所づくりをしようという考え方はあるのか。</p>
事務局	<p>本年度まで、民間にやっていた。来年度以降も、引き続き民間の方に数年間契約し、本格運用というかたちで継続していきたい。現在行っているエリアも継続的に使用できるように国に申請している。運営される事業者によって内容は変わってくるかもしれないが、現段階では継続として考えている。</p> <p>現在利用している場所は河川区域であり、何にでも使えるわけではない。「まちの賑わい」という目的で新潟市が申請をして借りており、一般の方が個人で占用利用するのは難しいので、いままでどおり市が占有して行っていくかたちになる。河川区域で災害の危険性もあるので、定常的に貸すということが難しい。</p>

山崎委員	<p>ゆっくり歩けるというのはよいと思う。広いエリアなので、歩くのが大変な時にバスや自動車を利用するのではなく、自転車で移動できるようにするという考えはあるか。</p>
新階委員	<p>いろいろな移動手段が考えられるとよいと思う。ゆっくり歩くことも楽しめ、自転車も利用でき、公共交通で移動することもできるまちの姿があるとよいと思う。</p>
事務局	<p><事務局からの連絡></p> <p>次回、青年会議所をオブザーバーとして参加してもらうことを提案したいがどうか。 (異議なし)</p> <p>その他にも、今後プレス発表等を通じて新たに参加したいという意向が出れば提言させていただいたりしながら、進めていきたい。</p> <p>次回の協議会は、他の協議会の動きを踏まえ、秋以降に開催する予定である。</p>
事務局	<p>5. 閉会</p> <p>本協議会の内容は、HP 等で公表する予定であり、公表の前に一度確認していただくことを考えている。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>